



# 一生懸命たよい



## 警察再編

# 望月署の存続を！ 南佐久署の充実を！

■ 今回の警察組織の再編は全県下を対象とした「あり方懇話会」のものであったはずであり、当直6人以下の警察署を対象としたとの説明。それでは25署が15署位になるのかと思いきや、他はすべて特殊事情があるとのこと。開いてみたら「東信三署」。立科町の直轄一望月署とその両隣一丸子署と南佐久署のみでした。合併による行政区整合のみなら何の為に「あり方懇話会」かとの声も聞かれます。これでは県下全体の議論とはなりにくく、明日は「我が身」と考え、警察委員会での視察や活発な議論を期待します。(東信地区議員11名のうち、警察委員は「東御市に警察署を」と陳情した保科議員のみ)

■ この地域は蓼科山を含む八ヶ岳中信国定公園があり、広大な地域です。もともと佐久署は浅間山麓の御代田町と旧浅間町(岩村田)でできたもの。噴火の浅間山頂から蓼科山頂まででは無理があります。しかも山の向こうの茅野、諏訪、岡谷の3署は皆伊那寄りにあります。この三署が今回の組織再編で無くなると各3万5千人前後3署の住民(10万人余)が大変なことになります。大きな空白地帯ができます。(地図参照)

■ 山があれば山岳救助隊などがあります。年間200万人の方々を訪れる観光地(女神湖・白樺湖・蓼科牧場)でもあります。このエリアに警察署がなくなることにより多くの住民は不安を抱えています。すべて都市部一極集中ではなく、勤務は大変でも警察署(内部を改革)は小分けして地域特性を活かし、小さなコミュニティをしっかりと作り、積み上げてこそ豊かで安全な暮らしが保障できると思います。あらためて関係する地域の人々の意見を県警本部は考慮すべきだと考えます。

## 6月定例県議会のご報告

6月議会では575億7,900万円の近年にない大型の補正予算が可決された。この大規模補正額は景気対策費として国から各種の基金交付がされたためである。今井正子県議は今議会では地元で大きな課題となっている警察組織の再編整備計画(三署統合)について、「望月署存続」「南佐久署に臼田住民の声を反映を」を強く訴え、質問を行った。



知事に要望する立科町の代表

## 行政 警察組織の再編整備計画案について

- Q 今回の統合案では現在の佐久署110名、望月署35名(内北御牧2名を除く)、南佐久署52名で計195名。統合により15名減の180名となるが、警察力低下は本当に大丈夫か？
- A 今回の組織再編によって警察力が低下することはないと考える。

「**協・防犯・友の会等地域との繋がり**は？」

A パブリックコメントは望月署177件、南佐久署16件、丸子署3件。20年県政世論調査で交番・駐在に望む(複数回答可)1位がパトロール39.8%だった。治安の不安減は平成14年から21年度まで警察官331人増員。すべての交番に相談員(OB)を配置し、県民と協働で取り組んだ成果。

県政調査によると、最近5年間の治安情勢に関する認識は悪くなったと思う人は19年度63.4%、20年度57.1%と減。  
治安が悪くなったと思う理由

- 1位 県民の公共マナー、モラルの低下
- 2位 様々な情報が簡単に手に入るようになった
- ...
- 9位 警察官のパトロールが少ない
- 10位 警察の取り締まりが不十分



- Q 管轄区域と行政区分の違い、不整合によるデメリットを？大型交番と署の違い、許認可は？望月への即日交付の運転免許センター設置に対し、他地区から反対の声もあるが、実効性は？
- A 被害状況の関係機関との伝達、共有に手間がかかる。同じ市町村でありながら防犯や交通安全に関し、情報発信を別々に行う問題。サブセンターができるまで免許証の更新が可。交通規制を伴わない簡易な道路使用許可。銃砲の関係は検討。

